

新宮ライフセービングクラブ ミーティング レジюме

平成 26 年 3 月 2 日 13 時 00 分～

そびあしんぐう 研修室 4

出席者：中内・芝生・金田・大北・田原・宮崎・中村・本部・長野・菅

1 問題点

- ・定着するメンバーが少ない。年上層、若年層の間で意識・姿勢が違いすぎる。相互理解がない。
- ・チームワークができていない。交流ができていない。個人として入ってきて欲しくない領域も誰にもある。
- ・全体的にコミュニケーション不足。自分の中で人のイメージを勝手に決めつけてしまう現況。
- ・新宮 LC と九産大 LSC のいろいろな差が大きい。ルールや一線を考える段階なのでは？
- ・感情に任せて言っている。言い方に気をつけるべき。陰で言っている。何も言わない言えないのもまた違う。
- ・各自の頭の中で終わっている現状。出し合う場が必要。
- ・手順先行。こなしている。各自の意識や意向は？
- ・目的を持って来ている人とただ来ている人の差が大きいのでは？
- ・今のやり方が現況に合っていないのでは？急激な成長で手に負えなくなっている。
- ・輝きやイキイキとした雰囲気失われてきている。
- ・堅く、効率的に、政治的になってきてはいないか？
- ・社会的経験で大人たちが自分の居場所を作っていたのかもしれない。
- ・このままの状況ではいつか事故に繋がると思う。
- ・本人が望む LS ができる環境を。人を助けたい、役に立ちたい、自分を成長させたい、いろいろあるはず。
- ・いかに多様な LS を受け入れられるかがクラブの器。器が大きなクラブにしていきたい。
- ・ハンディキャップを背負ったメンバーを現況で受け入れられるか？受け皿が大きなクラブにしたい。
- ・競技にみんな興味を持ったらもっと応援も活性化。審判や観戦なども積極的に普及できれば。
- ・過去の経緯(苦労や生い立ち)を伝承していくべき。
- ・外部大会警備などの人員不足から、スキルが高くないメンバーのみで行く現状はいかがか？
- ・ミーティングで決定権がないのはいかがか？
- ・寄付金箱のあり方(上位思考？金額表示？継続・撤退？)
- ・1 人の LS である以上、最低限の向上心を持つべき(海練や競技など積極的に)

2 新宮 LC の生い立ち

- ・1996 福岡 LC 発足→1999 新宮浜監視→2004 新宮会計→2010 新宮 LC 発足→2012 九産大 LSC 発足
- ・経験的にひとつのコミュニティは 20～30 人が限界では？
- ・今の新宮 LC は器に対して、いろいろなコトが溢れている印象。器を大きくしないと。

3 今後の展望

- ・若年層が動きやすく、モノを言える環境へ。個人愛称を取り入れても良いのでは？
- ・システムを早急にやるべき。
- ・人が大切にされていないと感じる現況。モノを言える場が必要。
- ・クラブマガジンなど通知を各自に飛ばす。やっていることを周知。参加率にも大きく関わるのでは？
- ・ビーチクリーンを復活したい。
- ・トップダウン体制からボトムアップ体制へ変革。
- ・委員会制度を導入。この場で精査厳しいが 4 月から運用開始。年度内に作業部会。具体的に煮詰めていく。
- ・作業部会は 3/9・3/21 の 13～17 時。日程足りなければ増やす。年度内に決め、来年度から運用。